

IMAGINE THE FUTURE.

学長からのメッセージ

筑波大学は前身校である東京教育大学の筑波への移転を契機に、新しい構想に基づく総合大学として1973年に創設されました。その歴史は1872年の師範学校の開学にさかのぼります。本学はあらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、従来の観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念として、我が国における大学改革を先導してきました。このように本学は、理想の大学を目指して、常に新しいことに挑戦し、新しい領域を開拓する精神を尊重しています。

大学の最も重要な使命は、無限の可能性を持つ若者に、その能力を十分に発揮できるような環境を整備し、我が国の未来を託す人材を育成することにあります。本学では、高度で先進的な研究に裏打ちされた教育を通じて、学生の個性と能力を最大限に開花させ、人の心を思いやる豊かな人間性と創造的な知力を蓄え、自立して国際的に活躍できる人材を育成することを目標としています。とくに、コミュニケーション能力、倫理観、使命感や論理的思考能力の向上を目指し、自主的に考え、想像し、表現し、新しいことに挑戦することにより、課題を発見し解決する実践力と豊かな創造性を育成したいと考えています。

本学の特色の一つである緑あふれる恵まれた自然環境は、学生、教職員にとっては魅力あるキャンパスライフの基礎となっています。首都圏にありながら、都会の喧騒とは縁のない静かなキャンパスは、若者が自

由にのびのびと考え、議論し、表現する力を養う貴重な環境を提供しています。この広大なキャンパスには世界各国から、また全国各地から多様な学生が集っていることも特色であり、留学生数は国立大学の中では2番目に多く、本学はグローバル30の拠点校として、国際色豊かな大学、多様な価値観を尊重する大学として発展してきました。

総合大学としては他に例を見ない幅広い学問分野を有しており、専門分野を深化させながら、学際・融合的な教育研究を積極的に展開し、数々の研究成果を挙げるとともに国際的研究・教育拠点としての高い評価を得ています。ノーベル賞受賞者の朝永振一郎博士、江崎玲於奈博士、白川英樹博士の3氏が本学関係者であり、朝永振一郎博士は1965年にノーベル物理学賞、江崎玲於奈博士は1973年にノーベル物理学賞、白川英樹博士は2000年にノーベル化学賞を受賞しています。本年が生誕150周年に当たる嘉納治五郎氏は、本学の前身である東京高等師範学校の校長を23年にわたり務め、柔道や文武両道の教えを全国に啓蒙しました。オリンピックでは本学の多くの著名なアスリートが、金メダルを含めた数多くの足跡を残しています。

大学は、人類社会の調和の取れた発展の鍵を担う知の拠点として、大きな社会的役割が求められています。教育、研究と並んで、大学の重要な機能として、国際貢献、産学官連携、地域貢献などの社会貢献があります。本学は科学技術研究機関が集積する筑

波研究学園都市の中核として、教育研究諸機関および産業界との連携協力に積極的に取り組み、自らの教育研究機能の充実・強化を図るとともに、広く社会の発展に寄与してきました。世界はグローバル化し、膨大な情報は瞬時に世界を駆け巡り、変化の激しいことに多くの人たちが戸惑っています。私達は変化の時代に臨み、その変化に対してしっかりと対応するとともに、新しい付加価値を生み出すような未来を開拓する想像力を尊重し、育成したいと思います。IMAGINE THE FUTURE. という言葉に、筑波大学及び筑波大学人のあるべき姿を象徴しています。



筑波大学長 山田 信博

【生年月日】1951年12月5日生まれ

【専門分野】内科学一般

【所属学会】日本糖尿病学会、日本動脈硬化学会、日本内科学会

【研究テーマ】動脈硬化症の病態生理、糖尿病、高脂血症

【学歴】1976年3月 東京大学医学部医学科卒

【学位】1982年4月 医学博士 東京大学

【職歴】1986年12月 東京大学医学部附属病院助手

1994年10月 東京大学医学部附属病院講師

1995年5月 東京大学医学部助教授

1999年5月 筑波大学臨床医学系教授

2007年4月 筑波大学理事・附属病院長

2009年4月 同学長